

Rotary International District 2570
GOVERNOR's Monthly Letter

2025-2026年度 Vol.09

ガバナー月信

3

月号
2026.3.10



下老袋入間川西岸の菜の花

 下老袋入間川西岸
(川越市下老袋)



**UNITE
FOR
GOOD**

第2570地区ガバナー

水と衛生

Water and Sanitation

2025-26年度 国際ロータリー
第2570地区 ガバナー

相原茂吉

Aihara Mokichi
(川越RC)

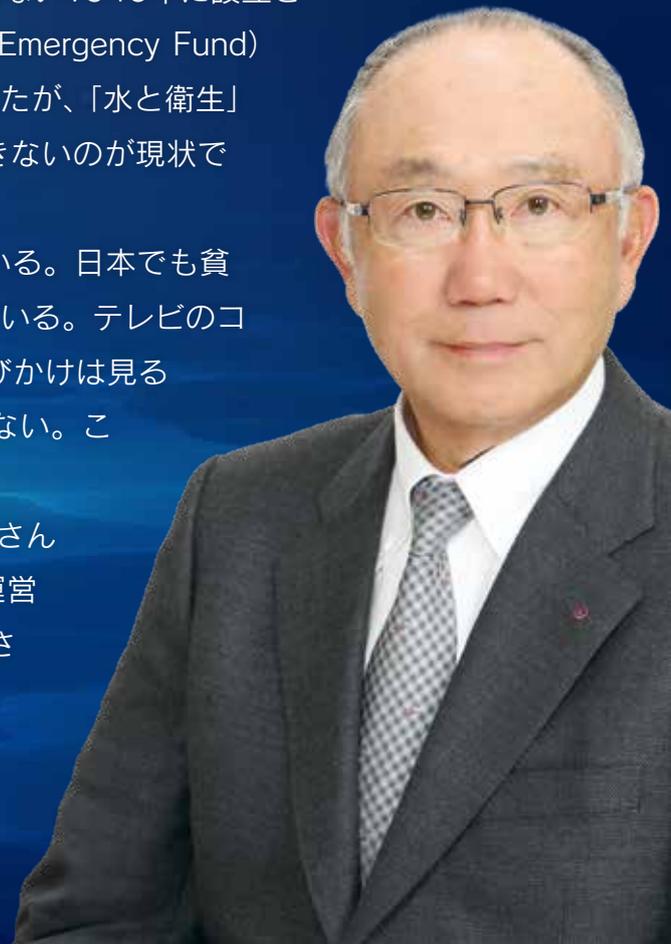
私の家業は祖父が始めた大豆卸がスタートで、主に豆腐屋さんに大豆を販売する事を生業としてきた。大豆は1俵が60KGであり、1俵から約500丁の豆腐ができる。そして60KGの大豆を豆腐に変えるには、豆腐自体の水分量（約90%）はもちろんの事、製造するには約3～4トンの水が必要とされている。大手の豆腐工場では一日6000tの水を処理しているところもある。日本の伝統食品である豆腐、正に豊富な水に負うところが大きい。

2月の大寒波到来の時、伊東市や箱根で凍結による断水が発生した。市民はポリをもって対応したが、本当に不便を強いられた。飲料水は勿論だが特にトイレが困ったらしい。今、日本では水は水道をひねると当たり前で得られる。しかし一度、トラブルが発生すると、インフラが整備されているだけに想像以上の問題に直面する。

一方、世界に目をむけると21億人が様々な理由でその「当たり前」を手に入れる事ができない。子供達が生きていくうえで、水と衛生は大きな問題だ。汚れた水や不衛生な環境は感染症をおこす。幼い子供にとって命の危険にもなりかねない1946年に設立されたユニセフ（United Nations International Children's Emergency Fund）は長年にわたり最優先事項としてこの問題に取り組んできたが、「水と衛生」問題が解決に向かっているかと言えば、必ずしも楽観できないのが現状である。

世界中にユニセフ協会が設立され募金活動が行われている。日本でも貧困に喘ぐ世界の子供たちを助けるため、寄付を呼びかけている。テレビのコマーシャルで見かけた人も多いただろう。しかし寄付の呼びかけは見るが、その結果世界の貧困がどれほど減ったか等の報告はない。この問題は実態が分かりにくい。

そのうえ時折不協和音も聞こえてくる。有名な歌手のAさんはユニセフ大使として募金活動を行っている。Aさんが運営する団体で集めた寄付金のうち、実際にユニセフに送金されたのは81%という報道が流れた。真実のほどは分からないが「募金活動にはお金もかかる」といったAさんの反論も放送されていた。



水と衛生

Water and Sanitation

その点、我がRotary財団の寄付は透明性がしっかりしているようだ。チャリティーナビゲータで17年連続最高位の4つ星を獲得している。Rotaryは2013年より財団の7つの重点分野のひとつ「水と衛生（Water, Sanitation, and Hygiene WASH）」問題に取り込んできた。この実績は、My Rotaryなどにしっかりと報告されているので時間があつたら是非見て欲しい。

少し前のことだが、トランプ米国大統領はWHOから脱会する旨を発表した。米国はWHO最大の資金拠出国であり、WHOは脱会するなら拠出金を払えと声明をだした。トランプ氏がWHOを評価してないのは以前からはっきりしていた。コロナの発生は中国の武漢にある研究所からと言われる。武漢研究所の一研究員がSNSを介して、新しい感染症の警告を出した。その後間もなくこの研究員は病死した。中国政府はコロナの武漢発生説を全面否定し、逆に中国はコロナの被害者だという論陣を張った。この問題が起きた時WHOのテドロス事務局長は中国寄りの発言に終始した。同氏の母国エチオピアが中国と密接な関係にあるためとの説が流れたが、真偽は分からない。

米国は以前からWHOに不信感を持っていたが、同じ国連傘下のユニセフにも積極的にかかわっていない。ユニセフに問題があるのか、世界人口が爆発的に増えたためか、地球温暖化の影響か、1946年発足以降すでに79年経つが、結果としてユニセフの「水と衛生」問題はまだまだ解決したとは言えない。

ユニセフには頑張ってもらいたいだが、しっかりとした供給を考えると、海に目を向けざるを得ないと思う。世界を見回しても人類が必要とする水が十分に残されているのは海しかない。海水はほぼ無尽蔵である。海水を人類が必要とする水に換えられれば、「水と衛生」問題は大きく違ってくる。水に係る日本の技術は、世界でも超一流の水準にある。シンガポールはマレーシアから水道の供給を受けていた。しかしマレーシアから法外の料金を要求されたのを機に、下水の浄水化作戦に取り組みだした。今では下水を浄化した水を、飲料水として使っている。それを支えたのが日本の大手繊維メーカーの技術だった。

水処理を専門とする大手企業は上場企業だけで何社もある。海水を真水に転換する技術を得意とする企業もある。問題はコストだ。河川から得られる水に、最低限の消毒をするだけならコストは極めて安い。海水を利用するとそうはいかない。それでも、人類100年の計を考えるなら、無尽蔵といえる海水の活用以外、安定的な水の確保は難しいように思う。

1946年ユニセフが発足した頃と比べれば、世界の技術進歩は一変している。まずは海水を安価に真水にできる技術開発が第一歩となるだろう。夢物語かもしれないが、洋上に浮かぶ船で海水→真水に転換し、パイプで送られた水が都市に送られる。このような姿が目には浮かぶ。山間部にある貯水池ダムに代わりになるのだ。このようなシステムが実現されれば、ダムの水が不足して貯水率が低下した時にも全く問題ない。

世界的視野にたった、こういった日本の動きは、注目に値する。6千メートルの海底からレアアースを取り出す技術を生み出した国だ。海水の真水化技術の実現も大いに期待したい。

RLI委員会

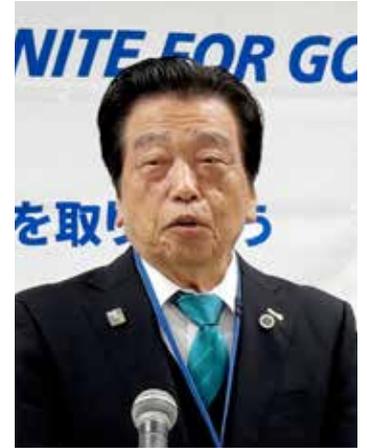
ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) パートⅢ開催報告

Report on the Rotary Leadership Institute - Part III

RLI委員会
委員長

新井啓介 (行田さくらRC)

Arai Keisuke



2025年12月20日(土曜)午前9時、国立女性教育会館で、RLIパートⅢが、相原茂吉ガバナーによる点鐘・坂本元彦RLI日本支部地区代表委員の挨拶により開催されました。

44名の参加者と15名のファシリテーター(F T)が、パートⅢ「私のロータリーの旅」をテーマに、次の6つのセッションについて6時限にわたりディスカッションを行いました。

1. ロータリーの機会
2. 効果的なリーダーシップ戦略
3. ロータリー財団Ⅲ：国際奉仕
4. 公共イメージ
5. 規定審議会・決議審議会
6. 変化をもたらす

参加者は、7～8名のクラスに分かれ、2～3名のF Tの下、各セッションで「国際ロータリーの常設プログラムについて」「ロータリーにおける指導力と協力関係の形成について」「国際奉仕プロジェクトの目的とは」「公共イメージのイメージアップ戦略について」「規定審議会・決議審議会」でロータリーの何を変えるか」「RLIパートⅠ～パートⅢに参加して自身にどのような変化を感じたか」等を、自由にディスカッションしました。

6時限終了後、坂本地区代表委員からの講評で、「受講者から、パートⅢまで受講してロータリーが理解でき楽しくなってきた、との発言があった。RLIは学びの場であり、ロータリーは学ぶことでより楽しくなる。」とのお話を頂きました。

3回にわたる長いカリキュラムを終了した参加者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は、それぞれのクラブで、今後、質の高いリーダーシップを発揮されることと期待します。

2月28日(土曜)には、「ファシリテーター養成セミナー」が開催されます。引き続きF Tとなってロータリーの旅を楽しんで頂きたいと思います。



青少年プログラム委員会

RYLADAY 開催

(Rotary Youth Leadership Awards)
青少年指導者養成プログラム

*RYLA Day Held
(Rotary Youth Leadership Awards)
Youth Leadership Development Program*

青少年プログラム委員会
統轄委員長

高橋貴子

Takahashi Takako
(行田さくらRC)



【テーマ】 **多文化共生社会における協働と対話**

【対象者】 インターアクトクラブ・顧問教師会

青少年交換プログラム派遣候補生・インバウンド学生・ローテックス・学友

2026年2月8日 国際ロータリー第2570地区ライラデイが開催されました。

当日はあいにくの雪模様となりましたが、約100名の学生と顧問教師会、ロータリアンの皆さまにご参加いただき、会場は熱気に包まれました。

第1部では、身近な人の講和でより共感を得て欲しいという顧問教師の思いから、ロータリー留学を経験した学友とローテックスの体験発表と講和。第2部のグループワークではインターアクトクラブの学生の得意とする活発な意見交換が行われました。「Unite for Good」～よいことのために手を取りあおう～という年度にふさわしくアクトライラ委員会と青少年交換委員会、五カ国の学生のコラボレーションは参加した学生たちにとって大きな刺激となり、これからの挑戦や活躍につながる貴重な学びの機会となりました。世代や立場、国を越えて交流し、互いに学び合う素晴らしい時間となりました。

「ロータリアンは行動人でなければならない」と言われております。参加した学生たちは「新世代の旗手たる行動人」であると感じました。この新世代を大切に育み未来のリーダーを生み出すことに青少年奉仕の意義があると思います。ご協力・ご参加を賜りました方々に感謝申し上げますとともに、今後とも青少年育成へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



ガバナー公式訪問
12/16
(火)

秩父 R C

会長 高畑泰寿
幹事 関口光英



2025年12月16日、R I 2570 地区ガバナー公式訪問が秩父ロータリークラブと皆野・長瀬ロータリークラブの合同例会として開催されました。坂口ガバナーがご逝去なされたため相原茂吉副ガバナーが来訪され、R I 2570 地区幹事の栗原雄一様、R I 2570 地区第4グループガバナー補佐の橋本和行様、そして秩父ロータリークラブ所属の原島生慈ガバナーエレクトが同席されました。なお、秩父ロータリークラブの高畑会長は体調不良のため宮前隆一副会長と関口光英幹事、皆野・長瀬ロータリークラブの畝会長、山田利明幹事がお迎えいたしました。

午前11時15分から入会3年未満の会員との懇談会が開催され、ガバナーがどのようにしてロータリークラブに加入し、加入した結果としてどのようなことを実感しているかを質問され、参加者はそれぞれの思いを率直に回答し、相原副ガバナーもそれぞれの話をさらに膨らませて、ロータリークラブ活動と人生に生かすようお話しされて和やかな懇談会となりました。

12時30分から通常例会が開催され、改めて来賓をクラブメンバーに紹介した後、例会のセレモニーを行い、12時50分から相原副ガバナーに卓話をお願いしました。

かつてご自身がガバナーをされた時期がちょうどコロナ禍の時期で、それによるご苦労、だからこそ工夫をしながらガバナーの務めを果たされたというお話や、近年のガバナーを巡る地区の動静や坂口ガバナーのガバナーになる前からの地区への貢献話を披露されました。

その後、ガバナー当時に作成されたDVDを全員で視聴し、最後にまとめの話で締めくくって頂きました。

例会終了後に参加者全員で記念写真を撮影し、公式訪問を終了しました。

なお、公式訪問例会では例会終了後にクラブ協議会を開催することが通例となっておりましたが、公式訪問例会の延期があったことや日程の都合により行いませんでした。

(報告者：幹事 関口光英)



ガバナー公式訪問
12/2
(火)

川越 R C

会長 吉澤 徳安
幹事 高橋 哲彦

12月2日（火）、相原茂吉副ガバナーと齋藤大祐第一グループ補佐をお迎えし公式訪問開催。入会3年未満の会員17名の懇談会では、2020-21年度相原ガバナー年度のDVDを見ながら相原副ガバナーのロータリー感を伺い、新会員のロータリーへの思いを交わした。卓話では、相原副ガバナーが坂口ガバナーに代わってガバナーの任に就く経緯と、過日開催された地区大会が成功裏に終了した背景には、川越ロータリークラブの歴史と伝統、会員の強い結束力、坂口さんから教えられたロータリーの精神が、クラブ文化としてしっかり根付いている話をされ、これからも「強いクラブづくり」を期待する旨の話を頂いた。



ガバナー公式訪問
12/9
(火)

越生毛呂 R C

会長 磯 哲也
幹事 市川 治子



坂口 孝ガバナーの突然のご逝去、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

故坂口ガバナーを第一グループの最後の訪問先である越生毛呂RCにお迎えできなかったことは、本当に残念でした。12月9日に、相原副ガバナーが公式訪問されました。齋藤ガバナー補佐、沢田副幹事3人で、我々少ないメンバーに花を添えていただきました。当日は、出席会員全員で、相原副ガバナーから歴代のガバナーの方々の様々なお話をお聞きし、地区のロータリーの歴史の勉強にもなりました。昼食後は、副ガバナーの卓話をDVDで聴くことが出来ました。画家であり、ガバナー経験者であった父上の生きざまをその中で語っていただきました。副ガバナーは、父上の教えの中で、人間として最も大事なものは「感謝する心」をいつも持っていることだと話されていました。我々にとって、心に残る充実した公式訪問でした。ありがとうございました。



表彰 *Award Collection*

PHF ボール・ハリス・フェロー MD メジャードナー	MPHF マルチプル・ボール・ハリス・フェロー 米山 米山功労者	PHS ボール・ハリス・ソサエティ 米山M 米山功労者マルチプル	BF ベネファクター 米山MD 米山功労者メジャードナー
--	--	--	--

PHS x1 川越中央 田中 秀樹	MPHF x8 熊谷 日向 美津江	MPHF x6 熊谷 小林 肇	MPHF x4 熊谷 田久保 眞理子	MPHF x2 熊谷 秋山 恵一
PHF x1 熊谷 鯨井 隆行	PHF x1 熊谷 坂田 浩一	PHS x1 熊谷藤原 茂木 祐一	PHF x1 飯能 服部 融亮	PHF x1 飯能 神田 敬文
米山 x1 飯能 都築 敏夫	米山 x1 飯能 天ヶ瀬 和弘	米山 x1 飯能 前島 宏之	米山 x1 飯能 井上 隆	



新会員紹介 *New Member Introduction*

鶴ヶ島 新井 佑太 入会年月日 2026年1月14日 勤務先 (有)あさひ総合保険 役職 代表取締役 生年月日 1985年11月1日 紹介者 加藤拓	飯能 平沼 庸生 入会年月日 2026年1月28日 勤務先 鳥居観光(株) 役職 代表取締役 生年月日 1974年8月3日 紹介者 吉島一良	所沢西 小山 伸之介 入会年月日 2026年1月20日 勤務先 (株)小松屋管器 役職 代表取締役 生年月日 1980年11月7日 紹介者 内野忍
深谷 深町 浩 入会年月日 2025年8月5日 勤務先 ㈱オリ・ホテルズ興産 埼玉グランドホテル深谷 役職 総支配人 生年月日 1970年2月15日 紹介者 松島雄二	深谷 吉川 修一 入会年月日 2025年11月4日 勤務先 (株)ヨシカワ 役職 取締役社長 生年月日 1978年4月10日 紹介者 馬場晴治	深谷 神山 憲秀 入会年月日 2025年12月23日 勤務先 深谷コミュニティーFM(株) 役職 代表取締役 生年月日 1967年12月13日 紹介者 下妻慶悟
寄居 関谷 寿 入会年月日 2026年1月14日 勤務先 株式会社 関谷造園 役職 代表取締役 生年月日 1971年9月16日 紹介者 押田大助、福島徹	深谷東 吉住 喜一 入会年月日 2026年2月1日 勤務先 ㈱東和銀行深谷支店・深谷南支店 役職 支店長 生年月日 1968年6月9日 紹介者 八須通夫 (前任支店長)	

会員数

[2026年1月]

グループ	クラブ名	会員数				
		2025年度初め	2026年1月末	対年初増減	2026年1月末 女性会員	M Y R C 登録率 %
第1グループ	川越	103	102	-1	5	45
	東松山	23	20	-3	1	40
	小川	4	3	-1	1	30
	坂戸	31	33	2	1	27
	越生毛呂	7	7	0	1	1
	川越小江戸	14	14	0	2	50
	川越西	31	35	4	6	51
	鶴ヶ島	29	30	1	2	62
	川越中央	23	23	0	1	30
	坂戸さつき	18	19	1	4	63
	東松山むさし	33	34	1	3	38
小計	316	320	4	27	40	
第2グループ	朝霞	22	23	1	2	50
	志木	48	50	2	4	54
	富士見	40	40	0	0	41
	新座	25	26	1	3	23
	和光	4	3	-1	1	100
	新座こぶし	10	10	0	3	70
小計	149	152	3	13	56	
第3グループ	入間	39	40	1	1	50
	所沢	68	70	2	6	32
	飯能	68	68	0	1	42
	新所沢	19	19	0	2	63
	日高	22	22	0	4	32
	所沢西	37	40	3	4	31
	新狭山	12	12	0	0	92
	所沢東	47	47	0	2	30
	入間南	39	44	5	1	53
	狭山中央	19	18	-1	5	37
小計	370	380	10	26	46	
第4グループ	深谷	56	59	3	13	44
	本庄	97	116	19	13	33
	秩父	54	54	0	1	50
	寄居	34	33	-1	1	64
	岡部	19	20	1	2	70
	深谷東	74	73	-1	0	40
	皆野・長瀬	8	8	0	0	25
	深谷ノース	28	32	4	5	48
小計	370	395	25	35	47	
第5グループ	熊谷	97	96	-1	4	51
	行田	52	53	1	5	15
	羽生	36	41	5	3	13
	加須	22	24	2	1	13
	熊谷西	6	6	0	0	50
	行田さくら	52	50	-2	4	67
	吹上	5	5	0	0	80
	熊谷籠原	27	27	0	0	41
	熊谷南	26	27	1	2	44
	小計	323	329	6	19	42
区地	合計	1,528	1,576	48	120	41

スケジュール

3月

8 (日)	地区チームラーニングセミナー
15 (日)	第1グループIM
20 (金)	米山記念奨学生終了式及び歓送迎会
28 (土)	会長エレクトララーニングセミナー

4月

5 (日)	新規米山オリエンテーション 第1回カウンセラー会議
11 (土)	財団第4回オリエンテーション
12 (日)	青少年交換オリエンテーション
17 (金)	クラブ活性化セミナー
18 (土)	クラブ活性化セミナー
19 (日)	クラブリーダーシップ ラーニングセミナー
25 (土)	第2グループIM

ガバナー月信 3月号 2025-2026年度 Vol.9

2026年3月10日発行

国際ロータリー第2570地区 地区事務所
〒355-0028 埼玉県東松山市箭弓町2丁目5番14号
ガーデンホテル紫雲閣内

[TEL] 0493-21-2570 [FAX] 0493-21-2571

[mail] d-office@mail.rid2570.gr.jp

[Web] https://rid2570.gr.jp

[ガバナー月信編集委員会] 委員長：菊池俊介 副委員長：荻原之彦
委員：佐藤道晴 八木拓也 細田智也